

令和5年度 第3回 AIによる下水処理場運転操作 デジタルトランスフォーメーション(DX) 検討会 議事概要

1. 日時 令和6年3月1日(金) 13:30~16:00
2. 場所 (公財)日本下水道新技術機構 会議室およびweb会議

【議事概要】

事務局から配布資料について説明が行われた後、委員の意見を伺った。

委員からの主な意見は以下のとおりである。

これまでの検討会における議論を踏まえ、下水処理場運転操作へのAI導入に向けた環境整備のあり方について、令和5年度末に提言をとりまとめることとなった。

- ベンダーロックイン解消で期待できる効果と解消後に想定される課題について、コストの問題が存在することを課題に挙げる必要がある。コストと便宜性とのバランスが重要であり、事業者に寄り添ったバランスを考慮する形での提言が必要である。
- AI運用のために必要な下水処理場の運転管理データの取り出しと一般的に認識されているベンダーロックインという言葉に齟齬を感じるため、あり方の中の記載について、検討いただきたい。
- 一方で、ベンダーロックインに関する記述は、提言に記載が必要である。自治体においても指摘事例があり、解決に向けた方向性の検討内容を示すことも重要である。

地域循環経済への貢献など、下水道に求められる役割とその実現のためにAI技術に期待することについて、主な意見は以下のとおりである。

- 下水処理場全体のエネルギーマネジメントシステムのように、最適運転の支援と向上に資するシステムの導入
- 豪雨対策における雨水ポンプの運転管理や、監視制御に画像診断AIの導入
- 再生水やコンポストなどの事業検討が可能なAIの導入
- ウォーターPPPを今後積極的に進めるうえで、運転管理にAI技術を導入することでランニングコストの低減や技術継承に関する課題解決への貢献
- 肥料の利用促進に関して農家の持つ土壌分析データや地域のバイオマス発生量などからのマッチング

以上